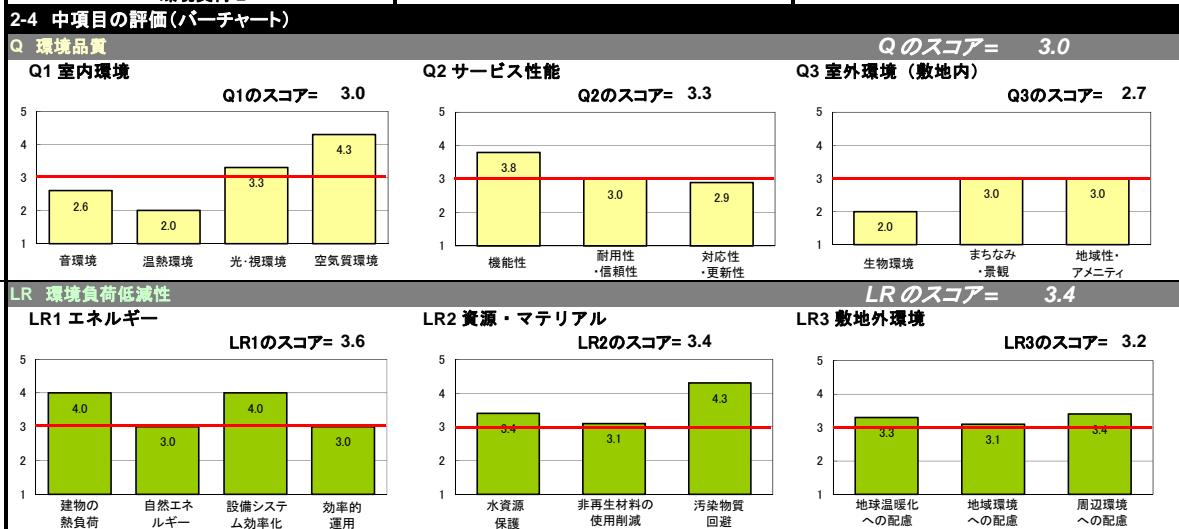
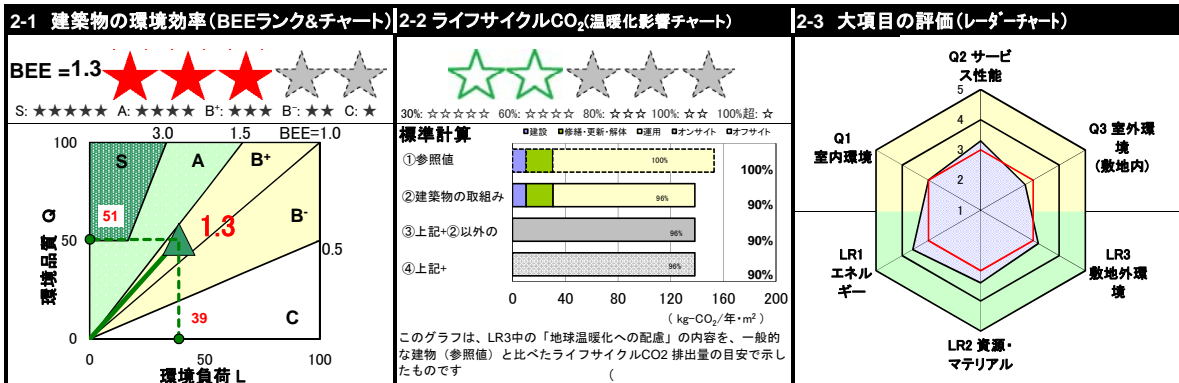


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)いわさき福祉ヴィレッジ	階数	地上4F
建設地	小牧市大字岩崎字山浦1423番70、小	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種	平均居住人員	169 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年5月1日
敷地面積	3,427.02 m ²	作成者	喜多優介
建築面積	1,371.44 m ²	確認日	2014年5月15日
延床面積	3,913.75 m ²	確認者	服部治樹



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 19.9 % 建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 11.4 %
3.3	2.0	
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし
2.9	1.0	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3 1 生物環境の保全と創出
 - ④地域材の活用
 - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.0
1 音環境								2.6
1.1 騒音								2.7
1 室内騒音レベル								0.40
2 設備騒音対策								3.0
1.2 遮音								2.4
1 開口部遮音性能								0.40
2 界壁遮音性能								3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								2.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								0.60
1.3 吸音								3.0
2.0 0.20								3.0
2 温熱環境								2.0
2.1 室温制御								2.0
1 室温								0.50
2 負荷変動・追従制御性								3.0
3 外皮性能								0.38
4 ゾーン別制御性								3.0
5 温度・湿度制御								0.25
6 個別制御								3.0
7 時間外空調に対する配慮								0.38
8 監視システム								-
2.2 湿度制御								1.0
2.0 0.20								1.0
2.3 空調方式								1.0
2.0 0.30								1.0
3 光・視環境								2.6
3.1 昼光利用								1.8
1 昼光率								0.30
2 方位別開口								4.2
3 昼光利用設備								0.60
3.2 グレア対策								3.0
1 照明器具のグレア								0.40
2 昼光制御								3.0
3 織り込み対策								0.30
3.3 照度								3.0
3.0 0.15								3.0
3.4 照明制御								3.0
3.0 0.25								5.0
4 空気環境								4.4
4.1 発生源対策								5.0
1 化学汚染物質								0.25
2 アスベスト対策								5.0
3 タニコビ等								1.00
4 レンゾネラ対策								5.0
4.2 換気								3.0
1 換気量								0.30
2 自然換気性能								3.0
3 取り入れ気への配慮								0.50
4 結露計算								3.0
4.3 運用管理								5.0
1 CO ₂ の監視								0.20
2 喫煙の制御								5.0
施設内禁煙及び、各階バルコニーを設け喫煙者は外で喫煙する								1.00
Q2 サービス性能								3.3
1 機能性								3.3
1.1 機能性・使いやすさ								3.3
1 広さ・収納性								0.40
2 高度情報通信設備対応								4.2
3 バリアフリー計画								1.00
1.2 心理性・快適性								3.0
1 広さ感・景観								0.40
2 リフレッシュスペース								3.0
3 内装計画								0.30
1.3 維持管理								4.0
1 維持管理に配慮した設計								0.30
2 維持管理用機能の確保								4.0
3 衛生管理業務								0.50
維持管理がしやすい内装及び外装仕上げに配慮している								4.0
十分な清掃用具室の確保及び汚物処理室等廃棄物スペースを確保								0.50
2 耐用性・信頼性								3.0
2.1 耐震・免震								3.0
1 耐震性								0.31
2 免震・制振性能								0.48
2.2 部品・部材の耐用年数								3.1
1 躯体材料の耐用年数								0.23
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								0.23
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								2.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔								0.09
厨房外等にステンレスが外を採用している								4.0
適材適所に配慮し、耐用年数の向上に努めている								0.08
								5.0
								0.15
								3.0
								0.23

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				2.6	0.29	3.2	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり				2.8	0.31	2.4	0.50	
1 階高のゆとり				2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.31	4.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			熱不可抑制の為外部サッシにLow-Eガラスを採用した。	4.0	0.30			4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			エネルギー仕様効率の良い設備システムの選定に努めた	4.0	0.30			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0		#VALUE!		
集合住宅の評価				3.9				
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水型器具の積極的な採用に取り組んだ	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			木材の使用箇所が少なく、使用材料の原産地把握・指導がしやす	5.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		事務スペースにOA707、訓練室に可動間仕切り等を積極的に採	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質の無い材料の使用に取り組んだ	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤			ハロン消火剤は一切使用していない	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			ODP・GWP共に係数0のものを使用している	5.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2が一般的な建物と同等	3.3	0.33			3.3
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			敷地乗入口の配置・幅員に配慮した	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33			3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				5.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうら光に遮れる光への対策			近隣に迷惑の掛からないよう配慮した	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			グレアが発生しない外壁材の選定に配慮した	5.0	0.30			

重点項目スコアシート
 (仮称)いわさき福祉ヴィレッジ

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.4_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
 重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>本施設は、地域密着型老人福祉施設として、施設を利用される方への配慮はもちろん周辺住民の方々との交流センター的な役割も担うような施設を目指しており、施設内部のみならず、周辺環境への配慮も忘れないよう、建築計画を行っている。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>騒音や室温制御及び昼光利用について、出来る限り、建築物本体の性能を上げる事により、電気を使う設備による負担を軽減できるよう心掛けている。</p> <p>また、設備についても省エネ性の高いものや部分制御を取り入れ、エネルギー消費を軽減できる様にも配慮している。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>老人福祉施設である為、バリアフリーはもちろんの事、各居室の広さや、仕上げ材料に天然素材を使うなど良好な室内環境を作り出せるよう配慮している。</p> <p>また、部材の耐久性についても積極的に耐用年数の高いものを使用するよう心掛けています。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外構及び屋上の緑化に努め、景観についても周囲の調和を崩さないよう、色彩計画に配慮するとともに、建ぺい率を及び、建物高さを抑えることによって、周囲に圧迫感を与えないように配慮している。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>平成25年に改正された新省エネ法を満足する性能を有する建物計画としている。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水型器具、再生可能建材の積極的な採用及び、有害物質を含む建材を使用しない等の配慮に努めている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>大気汚染の防止に配慮した設備の使用、及び雨水流出抑制施設の設置、交通負荷の抑制等、環境への配慮を怠らず計画を行っている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>